



Title	現代日本の「貧困観」に関するアンケート結果報告(2)
Author(s)	青木, 紀
Citation	教育福祉研究, 13, 49-73
Issue Date	2007-03-30
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/21520">http://hdl.handle.net/2115/21520</a>
Type	bulletin (article)
File Information	AOKI.pdf



[Instructions for use](#)

## 現代日本の「貧困観」に関するアンケート結果報告(2)

青 木 紀

### はじめに

本報告は、昨年の本誌第12号に掲載した「現代日本の『貧困観』に関する中間報告」につぐ位置にあり、その(2)として、さしあたって報告をしておくものである。前回の内容が、主として民生委員などの福祉関係者及び大学生などを対象にした結果であったのに対して、今回は「連合北海道」(日本労働組合総連合会・北海道連合会)という道内最大の連合労働組合組織構成員、すなわち中核的勤労者層を対象にしているところに大きな特徴がある。この種の調査は、一般に日本経済・社会の中核にある人々の意識をとらえようとするほど、その重要性に比例して困難性が増すことから、とくに結果は貴重なものである。まずは、これを受けて頂いた連合北海道に対して深甚なる感謝を申し上げるものである。

この「貧困観」アンケート調査では、あらかじめ「貧困」の定義を決めて何かをたずねているのではなく、人々の表象としての貧困観を見ておきたいと始まったことから、分析においては隔靴搔痒の部分も多い。しかも、対象が労働組合員であることから、ある種の偏りは免れがたい。だがそれでも、今回の結果については、今や組織率の低下などで希少価値をもった存在にもなりつつある労働組合員を対象にしたことが、またプラスの意義をもたらしていると思われる。すなわち、おそらく「社会問題」に関する意識と理解において相対的に高いはずである人々を対象にしたことが、漠然とした貧困観をより具体的な形で、言い換えれば表面的には矛盾したような関係やその認識をそのまま内包したような、多義的な側面をもった貧困観の現実を、よりクリアに把握することがで

きるようなきっかけを提供してくれたのではないかと感じている。

こういう調査もやればやるほど、今のところ、徐々にだが、人々の意識や行動習慣のようなことも浮き彫りにされてくるようでおもしろい。と同時に、いささかうろたえるような労働組合員意識の現状も見えてくる。以下、そのことを掲載した各結果表にコメントを加える程度に触れていくことにしたい。

なお、このアンケート調査は2006年8月に行われ、連合北海道事務局から各支庁の地域協議会を通じて約1,500部が配布され、そのうち回収された845票のうち844票を分析したものである。内訳は公務員として分類されるもの422、民間企業従業員として分類されるもの432である。回答者の男女別では、公務員で男性81.0%、女性18.2%(及びその他0.8%：合計はこの「その他」の数値を加えて100%となるが、ほとんど意味をもたない数字なので略した。以下同じ)であり、民間企業でそれぞれ83.1%、15.5%であった。年齢別では、公務員で20歳未満0.0%、20～29歳9.5%、30～39歳40.3%、40～49歳30.1%、50～59歳18.0%、60歳以上1.4%となっており、民間企業ではそれぞれ0.5%、14.6%、31.3%、29.9%、19.9%、2.8%であった。また、最終学歴では、公務員で中学卒業1.7%、高校卒業45.3%、短大・専門学校卒業14.0%、4年生大学卒業35.5%、大学院卒業1.9%であり、民間企業ではそれぞれ3.0%、66.7%、12.7%、15.7%、1.2%であった。両者を比較すると、公務員より民間企業において若い人が多く、学歴は低い人が多くを占めていた。

## 1. 「貧困」という言葉を聞いて（見て）、以下の内容を思い浮かべましたか、あるいは浮かべますか（表1）

「テレビや新聞等で知る途上国や戦災国の生活」及び「戦前や敗戦直後に多く見られた日本の生活」において、「はい」の比率がとくに高くなっている。ついで「ホームレスの人々の生活」で「はい」が高くなっているが、公務員こそ58%と半分を超えているものの、民間企業では48.1%と半分を超えておらず、「いいえ」が45.6%となっている。また「生活保護世帯の生活」はいずれも「いいえ」が60%近くを占めていることは、労働組合関係者でさえ、生活保護受給者の生活は「貧困」と結びつけて考えられていないことを示している。なお「政治家や国民の精神的な意味での貧しさ」は37～38%とかなり「はい」が高く、「貧困」という言葉はたぶんにメタファーとしても理解されている。

いずれにしても、民生委員など福祉関係者の結果と比較しても大差はない。実際、福祉関係者における「途上国や戦災国の生活」の「はい」は84.6%、「敗戦直後の日本の生活」の「はい」は72.7%、「ホームレスの人々の生活」では「はい」

が46.7%、「いいえ」が45.8%、「生活保護世帯の生活」では「はい」が36.3%、「いいえ」が54.5%となっていた。ここからは、少なくとも「貧困」という言葉から表象する傾向は、労働組合員も福祉関係者もほぼ同じであると判断できる。

なお、参考に載せた自由記述からは、「北朝鮮」「アフリカ」「餓死」「ストリートチルドレン」、「格差社会」「二極化」「ワーキングプア」などから「心の貧しさ」「発想の貧困」まで多様である。ここからは、世界中のニュースを伝える映像などの影響はやはり大きいとともに、最近の政治経済情勢を反映していること、あるいは「豊かな社会の心の貧しさ」といった理解が読みとれる。

## 2. 以下のような状況にある場合は「貧困にある人々」と考えますか（表2）

「はい」で高い比率を見せているのは「ホームレスとして路上生活している」(43～52%：なおこのような表示の仕方は、民間企業の43%から公務員の52%といった意味であり、以下同様に、どちらかの低い数値から高い数値の順でしばしば表すことがある)、ついで「1年以上失業状態で生活している」(30～34%)、「健康保険がない生活をしてい

表1 このアンケート調査で課題にしている「貧困」という言葉を聞いて（見て）、あなたは以下の内容を思い浮かべましたか、あるいは浮かべますか（単位：人、%）

質問項目	対象	はい	いいえ	無回答	合計
戦前や敗戦直後に多く見られた日本の生活	公務員	287 (68.0)	127 (30.1)	8 (1.9)	422 (100.0)
	民間企業	302 (69.9)	110 (25.5)	20 (4.6)	432 (100.0)
ホームレスの人々の生活	公務員	245 (58.1)	167 (39.6)	10 (2.4)	422 (100.0)
	民間企業	208 (48.1)	197 (45.6)	27 (6.3)	432 (100.0)
生活保護世帯の生活	公務員	160 (37.9)	251 (59.5)	11 (2.6)	422 (100.0)
	民間企業	151 (35.0)	253 (58.6)	28 (6.5)	432 (100.0)
テレビや新聞等で知る途上国や戦災国の生活	公務員	363 (86.0)	53 (12.6)	6 (1.4)	422 (100.0)
	民間企業	368 (85.2)	46 (10.6)	18 (4.2)	432 (100.0)
過去あるいは現在の自分自身の生活	公務員	74 (17.5)	333 (78.9)	15 (3.6)	422 (100.0)
	民間企業	67 (15.5)	335 (77.5)	30 (6.9)	432 (100.0)
政治家や国民の精神的な意味での貧しさ	公務員	165 (39.1)	241 (57.1)	16 (3.8)	422 (100.0)
	民間企業	162 (37.5)	242 (56.0)	28 (6.5)	432 (100.0)
「清貧の思想」「名もなく貧しく美しく」といった生き方	公務員	29 (6.9)	377 (89.3)	16 (3.8)	422 (100.0)
	民間企業	35 (8.1)	361 (83.6)	36 (8.3)	432 (100.0)

表2 あなたは、もしも人々が以下のような状況にある場合、それを「貧困にある人々」と考えますか  
(単位：人、%)

質問項目	対象	はい	いいえ	わからない	無回答	合計
ホームレスとして路上生活をしている	公務員	218 (51.7)	145 (34.4)	57 (13.5)	2 (0.5)	422 (100.0)
	民間企業	185 (42.8)	162 (37.5)	78 (18.1)	7 (1.6)	432 (100.0)
1年以上失業状態で生活している	公務員	145 (34.4)	188 (44.5)	86 (20.4)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	130 (30.1)	221 (51.2)	76 (17.6)	5 (1.2)	432 (100.0)
生活保護で生活している	公務員	131 (31.0)	236 (55.9)	52 (12.3)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	105 (24.3)	252 (58.3)	65 (15.0)	10 (2.3)	432 (100.0)
サラ金等からお金を借りて生活している	公務員	67 (15.9)	296 (70.1)	56 (13.3)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	59 (13.7)	310 (71.8)	55 (12.7)	8 (1.9)	432 (100.0)
住宅や車のローンを抱えた生活をしている	公務員	24 ( 5.7)	381 (90.3)	13 ( 3.1)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	17 ( 3.9)	390 (90.3)	18 ( 4.2)	7 (1.6)	432 (100.0)
生涯の大半を施設で生活している	公務員	56 (13.3)	274 (64.9)	88 (20.9)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	63 (14.6)	269 (62.3)	92 (21.3)	8 (1.9)	432 (100.0)
高齢者用の介護施設などで生活している	公務員	15 ( 3.6)	365 (86.5)	38 ( 9.0)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	20 ( 4.6)	345 (79.9)	60 (13.9)	7 (1.6)	432 (100.0)
高齢者が一人で地域で生活している	公務員	31 ( 7.3)	348 (82.5)	40 ( 9.5)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	45 (10.4)	332 (76.9)	47 (10.9)	8 (1.9)	432 (100.0)
大きな身体的障害を持って生活している	公務員	25 ( 5.9)	340 (80.6)	53 (12.6)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	45 (10.4)	309 (71.5)	71 (16.4)	7 (1.6)	432 (100.0)
健康保険がない生活をしている	公務員	133 (31.5)	204 (48.3)	81 (19.2)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	123 (28.5)	222 (51.4)	81 (18.8)	6 (1.4)	432 (100.0)
外国人で不法滞在者として生活している	公務員	75 (17.8)	259 (61.4)	86 (20.4)	2 (0.5)	422 (100.0)
	民間企業	57 (13.2)	283 (65.5)	84 (19.4)	8 (1.9)	432 (100.0)

る」(29~32%)、「生活保護で生活している」(24~31%)となっている。しかし、「生活保護で生活している」では「いいえ」が公務員、民間企業ともに50%以上を超え、「健康保険がない生活をしている」でもおよそ50%が「いいえ」となっている。

このことは、上記の表1の結果との関連からすれば、一面ではそれほど不思議とも言えない。だが生活保護世帯がスティグマに耐え、健康保険がなければ病気がまんじ、そのことがやがては大変な事態にもなりうることを想定すると、他面では組合員でさえこれほど「理解」が低いのかも気になる。同じことは、「サラ金等からお金を借りて生活している」についても言え、「はい」は14~16%に過ぎず、「いいえ」が公務員、民間企業ともに70%を超えた高さを示している。ここからは、よく言われる「多重債務と貧困」という表現

自体が、なお違和感をもたれていることが示唆されている。判断にあたって自己責任というような言外の意味が内包されているのかもしれない。

さらに「大きな身体障害的障害を持って生活している」「生涯の大半を施設で生活している」「外国人で不法滞在者として生活している」など、少しでも貧困との関わりを想像すれば、もしかして判断が変わりうるかもしれないような事情に対しても、もう少し「わからない」の比率が高く出てもいいのではないかと考えるのだが、「いいえ」の比率がはっきりと高くなっている。

なおここでも、福祉関係者との比較で言えば、「ホームレスとして路上生活している」という場合の「はい」の比率は、福祉関係者よりも労働組合員のほうが高いものの、そのほかにおいても大差ない。

### 3. 現代の日本社会で生きることを前提に考えて、以下の状況に対してどう思いますか（表3）

ここでの回答の仕方が「貧困である」・「貧困ではない」ではなく、「貧困である」・「必ずしも貧困

とはいえない」と意識的にしたことが、回答にどれほどのゆがみをもたらしているかが気になる。しかしともかく、まず「貧困である」とする回答の高いものを見ておくと、「医療機関に必要なときにかかれぬ」70～75%（福祉関係者では63%）がとくに高く、ついで「貧困である」が50%を超

表3 現代の日本社会で生きることを前提に考えて、「貧困とはいかなる状態のことをいうのか」以下の各状況に対して、あなたはどのように思いますか（単位：人、%）

質問項目	対象	貧困である	必ずしも貧困とはいえない	わからない	無回答	合計
水道や電気及びガスが使用できない	公務員	261 (61.8)	153 (36.3)	4 (0.9)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	207 (47.9)	205 (47.5)	15 (3.5)	5 (1.2)	432 (100.0)
住宅に暖房設備がない	公務員	246 (58.3)	159 (37.7)	13 (3.1)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	195 (45.1)	215 (49.8)	17 (3.9)	5 (1.2)	432 (100.0)
住宅にお風呂がない	公務員	121 (28.7)	290 (68.7)	8 (1.9)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	74 (17.1)	345 (79.9)	8 (1.9)	5 (1.2)	432 (100.0)
住宅に夫婦の寝室がない	公務員	34 (8.1)	370 (87.7)	15 (3.6)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	26 (6.0)	387 (89.6)	13 (3.0)	6 (1.4)	432 (100.0)
家族に利用できる車がない	公務員	30 (7.1)	374 (88.6)	14 (3.3)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	25 (5.8)	392 (90.7)	9 (2.1)	6 (1.4)	432 (100.0)
1年に1度のレジャーや旅行もできないほど金銭的余裕がない	公務員	122 (28.9)	280 (66.4)	17 (4.0)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	84 (19.4)	323 (74.8)	20 (4.6)	5 (1.2)	432 (100.0)
緊急時に必要な最低限の貯蓄もない	公務員	180 (42.7)	211 (50.0)	26 (6.2)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	130 (30.1)	267 (61.8)	28 (6.5)	7 (1.6)	432 (100.0)
健康的な食生活ができていない	公務員	212 (50.2)	185 (43.8)	21 (5.0)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	187 (43.3)	217 (50.2)	23 (5.3)	5 (1.2)	432 (100.0)
医療機関に必要なときにかかれぬ	公務員	315 (74.6)	86 (20.4)	17 (4.0)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	304 (70.4)	97 (22.5)	27 (6.3)	4 (0.9)	432 (100.0)
社会福祉サービスを必要なときに受けられない	公務員	192 (45.6)	180 (42.8)	45 (10.7)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	167 (38.7)	212 (49.1)	46 (10.6)	7 (1.6)	432 (100.0)
生きがいを感じられない	公務員	113 (26.8)	255 (60.4)	49 (11.6)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	87 (20.1)	293 (67.8)	46 (10.6)	6 (1.4)	432 (100.0)
他人から言われたままに生きている	公務員	77 (18.2)	271 (64.2)	70 (16.6)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	52 (12.0)	302 (69.9)	71 (16.4)	7 (1.6)	432 (100.0)
若者が高校を卒業していない	公務員	18 (4.3)	383 (90.8)	17 (4.0)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	17 (3.9)	395 (91.4)	14 (3.2)	6 (1.4)	432 (100.0)
読み書きに不自由がある	公務員	116 (27.5)	267 (63.3)	35 (8.3)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	88 (20.4)	294 (68.1)	45 (10.4)	5 (1.2)	432 (100.0)
安定した仕事を持っていない	公務員	61 (14.5)	337 (79.9)	19 (4.5)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	56 (13.0)	348 (80.6)	21 (4.9)	7 (1.6)	432 (100.0)
となり近所と良い関係にない	公務員	45 (10.7)	334 (79.1)	39 (9.2)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	23 (5.3)	356 (82.4)	47 (10.9)	6 (1.4)	432 (100.0)
友人や家族と外出を楽しむ機会がない	公務員	76 (18.0)	313 (74.2)	29 (6.9)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	45 (10.4)	348 (80.6)	33 (7.6)	6 (1.4)	432 (100.0)
他人や社会に役に立つことができない	公務員	55 (13.0)	327 (77.5)	36 (8.5)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	36 (8.3)	345 (79.9)	45 (10.4)	6 (1.4)	432 (100.0)
他者や社会から認められていない	公務員	60 (14.2)	309 (73.2)	49 (11.6)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	59 (13.7)	315 (72.9)	51 (11.8)	7 (1.6)	432 (100.0)
社会あるいは地域とほとんどつながりがない	公務員	76 (18.0)	295 (69.9)	47 (11.1)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	58 (13.4)	325 (75.2)	45 (10.4)	4 (0.9)	432 (100.0)

えている項目を取り上げると「水道や電気及びガスが使用できない」(公務員)、「住宅に暖房設備がない」(公務員)、「健康的な食生活ができていない」(公務員)、「住宅に暖房設備がない」(公務員)などである。そのほかでは、「社会福祉サービスを必要なときに受けられない」「緊急時に必要な最低限の貯蓄もない」などにおいて「貧困である」とするものの比率がいくぶん高くなっている。先の表2の「健康保険がない生活をしている」の数値に比較して、ここでは「医療機関に必要なときにかかれない」という命に関わる危険状態への想定に対する意識の高さが注目される。

しかしなお、「住宅に風呂がない」「夫婦の寝室がない」「利用できる車がない」「レジャーや旅行にいける金銭的余裕がない」など、現代日本の社会において一般的に「健康で文化的」と想定すると合意が得られそうなことも、「貧困」という言葉と関連させてみると「必ずしも貧困とはいえない」が支配的となる。このことは、いわゆる「相対的貧困」のような概念は、研究者などの間だけに通用しているに過ぎない、たとえ事実上はそのような概念が生活保護基準として具体的に反映されているとしても、考え方としては国民の間に普及していないことを裏付けている。

また、「高校を卒業していない」「読み書きに不自由がある」「安定した仕事を持っていない」なども、今やだれもが高校までは進んでいるのが一般的であるような社会を想定すると、「貧困である」の数値がもう少し高くなってもいいと思われるのだが、「必ずしも貧困とはいえない」が高い。さらに、「友人や家族と外出を楽しむ機会がない」「他人から言われたままに生きている」「他者や社会から認められていない」「社会あるいは地域とほとんど繋がりが無い」などに関して言えば、これらもしばしば識者によって、いわゆる「関係の貧困」などといわれることを想定すると、そのような発想はほとんどないままに対象者が回答しているようにも思われる。ただそこに、もし、たとえば「高校出ていなくても社長はいっぱいいる」「繋がりが無いような寂しい生活でもお金持ちはたくさんい

る」「親の資産があるから」といったことが思い浮かべられていたとすれば、結果的にこれらを「必ずしも貧困とはいえない」とするのはありうるかもしれない。

つまり、福祉関係者や学生アンケート結果と同じく、ここからは一般に、「貧困」はいわば極貧のイメージでとらえられていると言っている。しかし同時に、こういう設問に回答を重ねていくにつれて、回答者自身の貧困認識も変わっていくことはある程度予想もされることから(自由記述参照、ここでは「貧困の定義」のないままに設問を継続していくことへの不満も聞かれる)、ここには極貧状態としての絶対的貧困と日本社会の発展段階に応じた相対的貧困認識のようなものが入り交じりながら回答されているとも考えられる。実際、そのことを意識させようと、設問の文章には「現代の日本の社会で生きることを前提に考えて」とした。だから、おそらく、これを直接インタビューのような方法でたずねればまた変わった傾向が得られるかもしれない。だがそのことは別にしても、「必ずしも貧困とはいえない」に対する回答の高さは、あえて積極的な意味に解釈すれば、たとえば、かなりの人々は貧困の相対的性格といったことを知りうる、理解しうる可能性を秘めている状態にあるとも言える。

#### 4. ①日本社会で「貧困」はどれほどの問題だと思いますか(表4-a)、②あなたの身近なところに「貧困にある人々」と思われる方はいますか(表4-b)、③あなた自身あるいはあなたの家族が「貧困にある」と考えますか(表4-c)

①の「日本社会で『貧困』はどれほどの問題だと思いますか」については、前回のアンケートではこの設問項目がなかったことから比較できない。また、アンケート調査期間(2006年8月)における社会状況(7月20日にはOECDによる「対日経済審査報告書」が発表され、日本が相対的貧困率で先進国では2位であることが報じられたなど)の反映、さらにアンケート対象が組合員であ

表4-a 日本社会で「貧困」はどれほどの問題だと思いますか (単位:人、%)

対象	大きな問題である	問題である	小さな問題である	問題でない	無回答	合計
公務員	152 (36.0)	211 (50.0)	45 (10.7)	8 (1.9)	6 (1.4)	422 (100.0)
民間企業	143 (33.1)	223 (51.6)	52 (12.0)	9 (2.1)	5 (1.2)	432 (100.0)

表4-b あなたの身近なところに(親族や友人及びとなり近所といった範囲)にあなたが考える「貧困にある人々」思われる方はいますか (単位:人、%)

対象	多くいる	多少いる	ほとんどいない	わからない	無回答	合計
公務員	20 (4.7)	137 (32.5)	222 (52.6)	38 (9.0)	5 (1.2)	422 (100.0)
民間企業	18 (4.2)	135 (31.3)	236 (54.6)	39 (9.0)	4 (0.9)	432 (100.0)

表4-c あなた自身あるいはあなたの家族が「貧困にある」と考えますか (単位:人、%)

対象	そうは思わない	「貧困に近い」と思う	「貧困にある」と思う	わからない	無回答	合計
公務員	311 (73.7)	71 (16.8)	7 (1.7)	29 (6.9)	4 (0.9)	422 (100.0)
民間企業	321 (74.3)	57 (13.2)	18 (4.2)	33 (7.6)	3 (0.7)	432 (100.0)

ることなどに、ある程度左右されていることを考慮しなければならない。

しかし、先にも見たように、組合員においても貧困の表象がまず基本的には途上国や戦災国あるいは敗戦後の日本などと結びつけられていたことからすると、ある程度差し引いて見ることも必要だと思われるのだが、「日本社会でも大きな問題である」が33~36%、「問題である」がほぼ50%強であることは注目される。

このことを直接裏付けるとは言えないが、②の「あなたの身近なところで『貧困にある人々』と思われる方はいますか」の結果が、「多くいる」と「多少いる」の合計で36~37%の数値を示していることは、興味深い。なお昨年報告(その1)の数値を参考に示せば、M町住民のアンケート調査では「多くいる」と「多少いる」の合計は26.1%、またいくぶん基準は違うが「多い」「かなり」「多少」という表現でたずねた民生委員中心の福祉関係者では合計では29.1%であった。調査年の違いなどもここには反映されていると思われるが、「貧困層が堆積している」ような認識はなくても、ある程度の貧困層の存在は意識されていることがわかる。

とはいえ、③「あなた自身あるいはあなたの家

族が『貧困にある』と考えますか」では、「貧困にある」「貧困に近い」という数値は低い。なおちなみに、M町住民の結果は「そうは思わない」70.3%、「『貧困に近い』と思う」13.8%、「『貧困にある』と思う」6.5%などとなっていることから見ると、大きな差はない。

##### 5. もしもあなた自身あるいはあなたの家族が「貧困」になったとき、どのような気持ちになると思いますか(表5)

この設問は、あくまで「なったとき」という想像上での判断であり、現実に貧困におかれている人々の意識ではない。その点を注意しておく必要があるが、貧困観を見ておく上では意味がある。先に見たような、その表象を一般的には途上国などにおける極貧状態などに求める人々が、日本のような社会を前提に「貧困におちいったとき」に持つかもしれない想像的感覚もまた、貧困の表象を構成する一部だからである。

その点で注目したいのが、上記のような事情からして、「わからない」という回答がかなり占めるのが普通だと考えられるなかで、「精神的に落ち込む」の「はい」の比率が66~70%と高いだけでなく、「わからない」が13~14%とそのほかの設問項

表5 もしも、あなた自身あるいはあなたの家族が「貧困」になったときには、どのような気持ちになると思いますか (単位：人、%)

質問項目	対象	はい	いいえ	わからない	無回答	合計
みじめで恥ずかしくなる	公務員	217 (51.4)	113 (26.8)	88 (20.9)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	200 (46.3)	130 (30.1)	92 (21.3)	10 (2.3)	432 (100.0)
やけになる	公務員	85 (20.1)	238 (56.4)	94 (22.3)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	71 (16.4)	249 (57.6)	103 (23.8)	9 (2.1)	432 (100.0)
精神的に落ち込む	公務員	296 (70.1)	67 (15.9)	54 (12.8)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	283 (65.5)	81 (18.8)	60 (13.9)	8 (1.9)	432 (100.0)
社会をうらむようになる	公務員	140 (33.2)	166 (39.3)	111 (26.3)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	113 (26.2)	186 (43.1)	122 (28.2)	11 (2.5)	432 (100.0)
あきらめずに、はい上がる努力をする	公務員	256 (60.7)	30 ( 7.1)	133 (31.5)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	286 (66.2)	24 ( 5.6)	115 (26.6)	7 (1.6)	432 (100.0)
わが子だけは何とかはい上がらせたいと思う	公務員	313 (74.2)	27 ( 6.4)	78 (18.5)	4 (0.9)	422 (100.0)
	民間企業	342 (79.2)	21 ( 4.9)	62 (14.4)	7 (1.6)	432 (100.0)

目に比べて一段と低いことである。ついで「はい」が高いのが「みじめで恥ずかしくなる」の46～51%である。つまり、「みじめさ」「恥ずかしさ」「精神的落ち込み」といった感覚が、貧困観の一つのキーワード的な位置を占めていると推測されるのである。この感覚あるいは判断は、研究者の間ではよく知られている、タウンゼントらの言う「相対的貧困」概念と一致する部分と考えると良いだろう。なお前回の報告を見ると、「精神的に落ち込む」の「はい」は大学生84.3%、M町住民で58.7%、「みじめで恥ずかしくなる」の「はい」はそれぞれ47.9%、46.4%となっている。多少の数字の差はあるものの、感覚は同じと考えると良い（なお福祉関係者の数値はない）。

これに反して、たとえば「やけになる」「社会を恨むようになる」などにおいて「はい」が高くないのは、当然道義的な判断（そのような「共感」は低い）が働いていることも考えられるだろうし、実際に「なって」みなければわからないこともあるだろう。このあたりの「みじめさ」「恥ずかしさ」「精神的な落ち込み」といった「共感」との差は大きい。したがってまた、これらのことは、たとえば「貧困と事件」の関係は、意外に理解されやすそうであるのが現代であることを示しているのかもしれない。なお、大学生とM町住民の場合も、

組合構成員と同じような傾向を見せている。

以上の項目とはいくぶん性格が違うが、このほかはっきりと「はい」の比率が高いのは「わが子だけは何とかはい上がらせたいと思う」であり（74～79%）、「あきらめず、はい上がる努力をする」も「はい」が60%以上となっている。想像上の貧困からの脱出は、「がんばれば」「がんばって抜け出す」「わが子だけはそこから抜け出させたい」と思う信条の強さを示唆しているのだろう。

## 6. 現代社会においてなぜ人々が「貧困におちいるのか」（要因）について、下記の理由をどう思いますか（表6）

まず「強く思う」「思う」理由が高い項目を見ると、たとえば「解雇や失業による」79～83%、「地域の産業の衰退による」72～76%、「社会福祉予算などが少ないことによる」58～63%、「社会の助け合いの意識の不足による」52～55%などのほかに、「先のことを考えない生活を送ることなどによる」61～63%、「努力や頑張りの不足から」51～55%などが挙げられる。ここから注目されるのは、前者の四つはいずれも、いわば貧困の“社会的性格”にカテゴライズされる要因であり、後者の二つは、貧困の“個人的性格”として特徴づけられるとすると、相反する性格を持った理由がともに高く



表6 現代社会において、なぜ人々が「貧困におちいるのか」(要因)について、以下にいくつかの理由がかかれて  
いますあなたはどのように思いますか (単位:人、%)

質問事項	対象	強く思う	思う	思わない	わからない	無回答	合計
社会福祉予算などが少ないことによる	公務員	84 (19.9)	180 (42.7)	118 (28.0)	35 ( 8.3)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	75 (17.4)	177 (41.0)	127 (29.4)	46 (10.6)	7 (1.6)	432 (100.0)
となり近所が無関心なことによる	公務員	14 ( 3.3)	132 (31.3)	219 (51.9)	48 (11.4)	9 (2.1)	422 (100.0)
	民間企業	26 ( 6.0)	100 (23.1)	260 (60.2)	40 ( 9.3)	6 (1.4)	432 (100.0)
大きな病気やけがなどによる	公務員	29 ( 6.9)	156 (37.0)	188 (44.5)	44 (10.4)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	29 ( 6.7)	160 (37.0)	186 (43.1)	51 (11.8)	6 (1.4)	432 (100.0)
家族のきずなが弱いことによる	公務員	32 ( 7.6)	135 (32.0)	208 (49.3)	42 (10.0)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	22 ( 5.1)	160 (37.0)	198 (45.8)	45 (10.4)	7 (1.6)	432 (100.0)
親から受け継ぐものがないことによる	公務員	9 ( 2.1)	47 (11.1)	336 (79.6)	25 ( 5.9)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	6 ( 1.4)	52 (12.0)	345 (79.9)	23 ( 5.3)	6 (1.4)	432 (100.0)
社会の助け合いの意識の不足による	公務員	42 (10.0)	190 (45.0)	145 (34.4)	39 ( 9.2)	6 (1.4)	422 (100.0)
	民間企業	40 ( 9.3)	183 (42.4)	155 (35.9)	49 (11.3)	5 (1.2)	432 (100.0)
アルコール中毒や薬物乱用による	公務員	28 ( 6.6)	105 (24.9)	239 (56.6)	43 (10.2)	7 (1.7)	422 (100.0)
	民間企業	24 ( 5.6)	88 (20.4)	249 (57.6)	66 (15.3)	5 (1.2)	432 (100.0)
解雇や長期失業による	公務員	143 (33.9)	207 (49.1)	49 (11.6)	18 ( 4.3)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	116 (26.9)	226 (52.3)	63 (14.6)	23 ( 5.3)	4 (0.9)	432 (100.0)
地域の産業の衰退による	公務員	123 (29.1)	196 (46.4)	70 (16.6)	28 ( 6.6)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	91 (21.1)	221 (51.2)	75 (17.4)	41 ( 9.5)	4 (0.9)	432 (100.0)
先のことを考えない生活を送ることによる	公務員	63 (14.9)	203 (48.1)	107 (25.4)	44 (10.4)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	52 (12.0)	210 (48.6)	128 (29.6)	38 ( 8.8)	4 (0.9)	432 (100.0)
十分な教育を受けていないことによる	公務員	30 ( 7.1)	126 (29.9)	221 (52.4)	40 ( 9.5)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	29 ( 6.7)	90 (20.8)	271 (62.7)	37 ( 8.6)	5 (1.2)	432 (100.0)
努力や頑張りの不足から	公務員	42 (10.0)	171 (40.5)	158 (37.4)	46 (10.9)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	55 (12.7)	184 (42.6)	136 (31.5)	53 (12.3)	4 (0.9)	432 (100.0)
子どもが多いことによる	公務員	2 ( 0.5)	20 ( 4.7)	374 (88.6)	21 ( 5.0)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	5 ( 1.2)	31 ( 7.2)	365 (84.5)	27 ( 6.3)	4 (0.9)	432 (100.0)
外国人の不法な滞在による	公務員	7 ( 1.7)	31 ( 7.3)	307 (72.7)	72 (17.1)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	8 ( 1.9)	38 ( 8.8)	317 (73.4)	64 (14.8)	5 (1.2)	432 (100.0)

なっていることである。つまり、貧困の要因に関する理解は、前回の報告でも指摘したように、両義的な性格を帯びていることが示されている。

他方、「思わない」の高い項目を見ると、「子どもが多いことによる」85～89%、「親から受け継ぐものがないことによる」80%、「外国人の不法な滞在による」73%、「アルコール中毒や薬物濫用による」57～58%、「十分な教育を受けていないことによる」52～63%などとなっている。ここで注目されるのは、「親から受け継ぐものがないことによる」と「十分な教育を受けていないことによる」

の「否定」の高さである。先に見た「わが子だけは何とかはい上がらせたい」という意識の高さや、日本における学歴社会の一般的理解からすれば、ここには矛盾した、いささか理解しがたい傾向があるように見える。

すなわち、ここでは直接たずねていないことだが、最近ではむしろ子どもの面倒をどこまで見るかについてより長期化（大学卒業までとか、結婚までのように）していること、さらに高等教育費負担の大半をなお親が支払っている現実（青木紀「貧困・低所得家族の教育戦略の現実から何が見え

るか一教育社会学の課題』『北海道大学大学院教育学研究科紀要』97号、2005年、参照)。実際の現金や資産の世代的継承も、最近の税制改正の動向からしても、むしろ強まる部分もあり、そのことが格差社会の一要因として指摘されていることなどからすると、あまりにも親からの「家族資本」の継承を軽く見過ぎているのではないと思われる。もちろん、「十分な教育を受けていないことによる」などは、公務員より民間企業において「思わない」が高く、それはまた彼らの学歴の差をも反映しつつ、いわばそれゆえに「否定的」に働いている（プライドや上昇志向の気持ちから）と解釈することもできなくはない。しかし、ともに「親から受け継ぐことがないことによる」の「思わない」が80%であることは、注目される論点であるかもしれない。

このことは、いささか強調しすぎかもしれないが、いわば見えない「家族資本」というもとの、個人の努力信仰は労働組合員にも強く出ているという見方を成立させる。もちろん、北海道という、親から受け継ぐものがないような「貧困な地域」という特徴を示しているのかもしれない。しかし、先に指摘したことと関連して言えば、ともかく貧困の両義的な理解のなかに「家族資本の移転の問題」は、ほとんど入っていないことを意味すると

考えざるを得ない。つまり、私たちが先に生活保護受給母子世帯の分析から強調した家族資本の階層性のような現実には（青木紀編著『現代日本の「見えない」貧困』明石書店、2003年、参照）、アンケート対象者たちにとってもなお「ほど遠い」理解にあることを示唆しているようにも思われる。このことがホームレスの人々やフリーターなどの人々の理解の浅さや共感の不足とも結びついていないことが杞憂でなければ幸いである。

なおさらに「思わない」が相対的に高いのは、「となり近所が無関心なことによる」「家族の絆が弱いことによる」「大きな病気やけがによる」となっている。このことがまた、小さくはない意味と繋がっているのは後述する通りである。

## 7. ①なぜ「貧困のなかにある人々」「貧困のなかにおかれる人々」が社会に存在するのか（表7-a）、②最近の日本に関してもっとも近い意見はどれか（表7-b）

端的に言って、①前者から言えば、昨年の報告よりも、もっと貧困を「社会的性格」として理解する考え方が強く表れているのが特徴である。すなわち、「なぜ貧困が社会に存在するのか」では、「社会にたくさんの不公正があるから」が71~74%となっているが、同じ項目は大学生で

表7-a なぜ「貧困のなかにある人々」が社会に存在するのか、ここではさまざまな原因を総合的に考えて、以下の4つの意見のうち、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでください（単位：人、%）

対象	その人たちが不運であり続けたから	その人たちの頑張りが足りなかったから	社会にたくさんの不公正があるから	経済発展に伴う避けられない現象だから	無回答	合計
公務員	14 (3.3)	49 (11.6)	311 (73.7)	43 (10.2)	5 (1.2)	422 (100.0)
民間企業	11 (2.5)	62 (14.4)	307 (71.1)	47 (10.9)	5 (1.2)	432 (100.0)

表7-b 最近の日本社会に関して、以下の3つの意見のうち、あなたの意見に最も近いのはどれですか（単位：人、%）

対象	裕福な人々はより裕福に、貧困な人々はより貧困になっている	裕福な人々と貧困な人々との生活格差はだんだん少なくなっている	どちらもいえない	無回答	合計
公務員	375 (88.9)	3 (0.7)	39 (9.2)	5 (1.2)	422 (100.0)
民間企業	356 (82.4)	10 (2.3)	64 (14.8)	2 (0.5)	432 (100.0)

55.7%、専門学校生で60.5%、福祉関係者で48.5%、M町住民で50.0%であった。労働組合員だからこの高さは当然ともいえるが、このことも含めて、日本における国際的視点で見た貧困の「社会的性格」の理解度が極めて高いことは、その理由はよくわからないが興味深い（なお、青木紀・杉村宏編著『現代の貧困と不平等』明石書店、2007年、所収の青木紀「現代日本の貧困観」も参照）。

②「最近の日本に関する」理解については、ほとんどが「裕福な人はより裕福に、貧困な人はより貧困になっている」としている。民間企業の一部が「どちらとも言えない」としているものの、この回答が圧倒している。最近の格差社会論議の状況を大きく反映しているのだろう。なお参考に言えば、大学生では64.0%、専門学校生で55.5%、福祉関係者で53.1%、M町住民で55.1%だった。

## 8. 日本社会に関する以下の説明に関してどう思いますか（表8）

設問ごとに確認していくと、「生まれた環境によって人生が決まる社会」については、民間企業よりも公務員においていくぶん「強く思う」が高く、「思わない」では民間企業のほうがいくぶんが高くなっている。とはいえ、全体としては「強く思う」「思う」と「思わない」で、その解釈はほぼ半々に分かれている。

次に「生まれた環境にかかわらずがんばれば成功できる社会」について見ると、上記設問とは逆に、民間企業において「強く思う」「思う」の比率が公務員のそれよりいくぶん高くなっているものの、全体としておよそ半分が「強く思う」「思う」（公務員48.3%、民間企業56.8%）となっている。ただその中では「強く思う」は低く、「思う」が大半を占めているという特徴がある。なお、上記設問に比較して「思わない」という否定の数値は31~37%と低く、「わからない」の比率はより高くなっている。

この二つの回答状況から判断すると、当然のことかもしれないが、労働組合員にも、一般に「がんばれば成功する」という考え方は浸透していると言える。

次に上記の設問の性格とはいくぶん違いがあるが、一般論として日本社会のありようを聞いた設問回答を見ると、個々人の周囲の社会や公的機関に対する信頼感の欠如がかなり深刻になっていることが読みとれる。すなわち、いささかショッキングな数字とも言えるのだが、まず「周囲の人々による援助が頼りになる社会」に対して「思わない」が72~78%、「公的機関による援助が頼りになる社会」でも「思わない」が74~76%となっている。後者については、公務員が半分を占めるこのアンケート結果でも「そのような」と言ってもい

表8 日本社会に関する以下の説明に関して、あなたはどのように思いますか（単位：人、%）

質問事項	対象	強く思う	思う	思わない	わからない	無回答	合計
生まれた環境によって、その後の人生が決まってしまうような社会	公務員	42 (10.0)	160 (37.9)	186 (44.1)	29 (6.9)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	22 (5.1)	161 (37.3)	216 (50.0)	30 (6.9)	3 (0.7)	432 (100.0)
生まれた環境にかかわらず、がんばれば成功できる社会	公務員	6 (1.4)	198 (46.9)	155 (36.7)	58 (13.7)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	21 (4.9)	224 (51.9)	135 (31.3)	50 (11.6)	2 (0.5)	432 (100.0)
自分や家族が「貧困」におちいったとき周囲に人々による援助が頼りになる社会	公務員	1 (0.2)	42 (10.0)	330 (78.2)	44 (10.4)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	3 (0.7)	60 (13.9)	311 (72.0)	56 (13.0)	2 (0.5)	432 (100.0)
自分や家族が「貧困」におちいったとき公的機関による援助が頼りになる社会	公務員	3 (0.7)	49 (11.6)	320 (75.8)	45 (10.7)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	4 (0.9)	50 (11.6)	318 (73.6)	58 (13.4)	2 (0.5)	432 (100.0)

い。また前者については、先に表6で見た「社会の助け合い意識の不足」の結果とも繋がることではあるが、いずれにしても、労働組合員自体が社会一般に相当不信を抱いていると解釈できそうである。この点では非組合員の意識も知りたいところである。

なお、家族と家族の関係と聞いた既存の調査結果や先の表6などの数値をふまえて言えば、すでに「孤立化する家族」という現象は鮮明に出てきているが、ここからは、周囲の社会や自治体あるいは国家に援助を期待しない・できないと考えるような、「孤立した個人」「自己責任社会」の到来が予測されるかもしれない。労働組合員でさえと言うべきか、労働組合員だからと言うべきかは判断できないが、「ポーリング・アローン」(ロバート・パットナム『孤独なポーリング』)も他人事ではないところに、私たちはあると言うことであろう。

### 9. 「貧困から抜け出す」方法として下記の意見をどう思いますか (表9)

「結局は個人のがんばりなどの努力が『貧困から抜け出す』方法だ」については、「強く思う」「思う」の合計は公務員で61.1%、民間企業で65.5%となっている。「思わない」は24~28%である。大学生では67.1%、M町住民で68.8%となっていることからすると、全体として後二者の方がいくぶ

ん高い傾向にある。ここには、個人でがんばっても(限界がある)という労働組合員、社会人としての経験が影響しているかもしれない。

次に「次世代の子どもたちに十分な教育を受けさせることが『貧困から抜け出す』重要な方法だ」は、「強く思う」「思う」で公務員が56.4%、民間企業で48.1%であり、「思わない」は33~39%となっている。なお、ここでは昨年との比較は数値がないのでできない。しかし、この結果は、先に見た「貧困におちいる要因」における「家族から受け継ぐことがないことによる」の「否定」とは矛盾したような関係にあるものの、表5の「わが子だけははい上がらせたい」などの「はい」の高い比率とは整合している結果となっている。具体的に「貧困から抜け出す」にあたっては、「親としての気持ち」が素直に出ていると言っていいだろう。

なお、「もっとやり直しのできる機会を増やすこと」については、「強く思う」「思う」の合計は公務員で64.5%、民間企業で63.0%となっていることから支持は高い。しかしそれでも、約4分の1は「思わない」としている。

### 10. 「貧困のない社会」あるいは「貧困を減らす社会」をつくるためには、どこが責任を持つべきだと考えますか (表10)

先に、「公的機関」への信頼はほとんどないよう

表9 「貧困から抜け出す」方法として、以下のような意見があるとします。あなたはどう思いますか

(単位:人、%)

質問事項	対象	強く思う	思う	思わない	わからない	無回答	合計
節約し、人の倍以上働くなど、結局は個人の頑張りなどの努力が「貧困から抜け出す」方法だ	公務員	39 (9.2)	219 (51.9)	118 (28.0)	41 (9.7)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	36 (8.3)	247 (57.2)	105 (24.3)	39 (9.0)	5 (1.2)	432 (100.0)
子どもたちに十分な教育を受けさせることが「貧困から抜け出す」ためのもっとも重要な方法だ	公務員	41 (9.7)	197 (46.7)	140 (33.2)	41 (9.7)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	46 (10.6)	162 (37.5)	170 (39.4)	46 (10.6)	8 (1.9)	432 (100.0)
もっとやり直しのできる機会(訓練・大学入学)を増やすことが「貧困から抜け出す」ことを促す	公務員	48 (11.4)	224 (53.1)	104 (24.6)	43 (10.2)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	56 (13.0)	216 (50.0)	106 (24.5)	46 (10.6)	8 (1.9)	432 (100.0)

表10 あなたは「貧困のない社会」あるいは「貧困を減らす社会」をつくるためには、どこが責任を持つべきだと考えますか  
(単位：人、%)

質問項目	対象	強く思う	思う	思わない	わからない	無回答	合計
国、都道府県、市町村などの公的機関	公務員	171 (40.5)	191 (45.3)	46 (10.9)	11 (2.6)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	162 (37.5)	209 (48.4)	42 (9.7)	12 (2.8)	7 (1.6)	432 (100.0)
ボランティア団体	公務員	6 (1.4)	87 (20.6)	277 (65.6)	47 (11.1)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	4 (0.9)	90 (20.8)	276 (63.9)	51 (11.8)	11 (2.5)	432 (100.0)
企業・社会	公務員	107 (25.4)	212 (50.2)	74 (17.5)	23 (5.5)	6 (1.4)	422 (100.0)
	民間企業	79 (18.3)	232 (53.7)	80 (18.5)	31 (7.2)	10 (2.3)	432 (100.0)
労働組合	公務員	66 (15.6)	166 (39.3)	153 (36.3)	32 (7.6)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	51 (11.8)	190 (44.0)	132 (30.6)	50 (11.6)	9 (2.1)	432 (100.0)
宗教団体	公務員	3 (0.7)	28 (6.6)	348 (82.5)	38 (9.0)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	3 (0.7)	18 (4.2)	340 (78.7)	60 (13.9)	11 (2.5)	432 (100.0)
「貧困にある」当事者自体	公務員	88 (20.9)	222 (52.6)	70 (16.6)	37 (8.8)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	81 (18.8)	216 (50.0)	68 (15.7)	54 (12.5)	13 (3.0)	432 (100.0)
人々や機関がかかわるべきではない	公務員	6 (1.4)	9 (2.1)	366 (86.7)	36 (8.5)	5 (1.2)	422 (100.0)
	民間企業	1 (0.2)	18 (4.2)	339 (78.5)	60 (13.9)	14 (3.2)	432 (100.0)

な結果が生まれているのを見たが、「責任」となると、「国、都道府県、市町村などの公的機関」への見方はまったく変わる。ここでは、責任があると「強く思う」は公務員で40.5%、民間企業で37.5%、「思う」はそれぞれ45.3%、48.4%となっている。また「企業・社会」に対しても責任があるとするのは、「強く思う」は公務員で25.4%、民間企業で18.3%、「思う」でそれぞれ50.2%、53.7%となっている。同じことは大学生やM町住民でも言えるがここでは省略する。

以上のことは、「人々や機関がかかわるべきではない」に対して、ほとんどが「思わない」と否定していることから裏付けられている。なお「労働組合」の責任に関する設問では、「強く思う」「思う」の合計でいずれも50%以上となっているが、他方で「思わない」が公務員で36.3%、民間企業で30.6%となっていることは気になる。なおちなみに、「労働組合」については、大学生ではっきりと「思わない」としているのは15.9%、M町住民では29.0%となっている。しかし、「強く思う」「思う」の合計では大学生が69.4%、M町住民は39.8%となっている。

次に、以上とは対極にある個人の責任について

みると、「『貧困にある』当事者自体」への責任を求める意識にも相当強いものがあることは気にとめておきたい。責任が当事者にあると「強く思う」は公務員で20.9%、民間企業で18.8%、「思う」はそれぞれ52.6%、50.0%と高い。このことは大学生でも「強く思う」が22.2%、「思う」が52.0%、であることからすると、大差はない。貧困の個人責任説は、「貧困がなぜ社会に存在するのか」という設問に対しては圧倒的に否定されていたのだが、いざ抜け出すときの脈絡でたずねた場合は、「個人のがんばり」として強く表面に出てくるということであろうか。

このように見てくると、人々の持つ貧困に関する知識と人々が現実生きるなかでの発想の間に横たわる差異、乖離、分離、距離といったことが気になってくる。私たちが、これまで、一度は社会構築主義的なアプローチを採用してみること、とくに知識社会学の視点も考慮に入れざるを得ないことを意識してきたのは、ここらあたりの課題にどう切り込むかを念頭に置いていたからでもある。今回の結果はそれを強く裏付けているようにも思われる。

なお、宗教団体やボランティア団体に関しては、

とくに前者に関しては期待が少ないのは西欧諸国との差異でもあろう。

**11. 生活保護に関する意見、①生活保護の存在を知っていますか(表11-a)、②生活保護制度は「保護から抜け出す」ための自立に効果がある制度だと思いますか(表11-b)、③生活保護制度はすべての人に利用されていると思いますか(表11-c)、④生活保護制度の利用についてどう思いますか(表11-d)**

最近の社会状況において生活保護問題はしばしば新聞等でも取り上げられることも多いし、テレビでも流されている。その影響も大きいであろう。

①「生活保護制度の存在を知っていますか」で

は、「まったく知らない」はほとんどなく、「よく知っている」「ある程度知っている」で、公務員の方が65.9%と高いものの、民間企業でも50%は超えている。「言葉だけ知っている」ものも含めて、その認知度は高いと言っている。

②「生活保護が自立に効果があるかどうか」では、「効果がある」が7~8%、「依存精神を助長している」が18~22%、「効果と同時に依存精神も助長している」が公務員で50.2%、民間企業で40.7%、「わからない」が19~33%となっている。ここからは、その評価における「両刃の剣」としての理解は、かなり一般化していると言っているかもしれない。

③「生活保護は必要な人に利用されているか」では、「必要なすべての人に利用されている」は3

表11-a あなたは、国民のだれもが最低限の生活を保障されるという「生活保護制度」の存在を知っていますか (単位：人、%)

対象	よく知っている	ある程度知っている	言葉は知っている	まったく知らない	無回答	合計
公務員	60 (14.2)	218 (51.7)	133 (31.5)	7 (1.7)	4 (0.9)	422 (100.0)
民間企業	22 (5.1)	195 (45.1)	199 (46.1)	8 (1.9)	8 (1.9)	432 (100.0)

表11-b 生活保護制度は、「保護から抜け出す」ための「自立」に効果がある制度だと思いますか

(単位：人、%)

対象	効果がある	依存精神を助長している	効果と同時に依存精神も両方持っている	わからない	無回答	合計
公務員	33 (7.8)	93 (22.0)	212 (50.2)	79 (18.7)	5 (1.2)	422 (100.0)
民間企業	32 (7.4)	76 (17.6)	176 (40.7)	141 (32.6)	7 (1.6)	432 (100.0)

表11-c 生活保護制度は、憲法に基づいた「貧困におかれている人々」に対する重要な国家の政策ですが、必要な人に利用されていると思いますか (単位：人、%)

対象	必要なすべての人に利用されている	必要な人々に利用されていない場合が多い	必要でない人に利用されている	わからない	無回答	合計
公務員	12 (2.8)	180 (42.7)	142 (33.6)	76 (18.0)	12 (2.8)	422 (100.0)
民間企業	19 (4.4)	190 (44.0)	131 (30.3)	82 (19.0)	10 (2.3)	432 (100.0)

表11-d 生活保護制度の利用について、あなた自身はどのように思いますか (単位：人、%)

対象	必要になれば、利用するだろう	必要になっても、おそらく利用はしないだろう	必要になっても、絶対に利用はしないだろう	わからない	無回答	合計
公務員	300 (71.1)	58 (13.7)	13 (3.1)	48 (11.4)	3 (0.7)	422 (100.0)
民間企業	316 (73.1)	36 (8.3)	7 (1.6)	64 (14.8)	9 (2.1)	432 (100.0)

～4%くらいと極めて低く、「必要な人々に利用されていない場合が多い」が43～44%、「必要でない人に利用されている」が30～34%となっている。この判断の背後にいかなる事情が左右しているはわからないが、一般に生活保護に伴うスティグマや、生活保護水準でさえ確保できないような年金受給者、あるいはワーキングプアなどの存在が想定されているかもしれない。またメディアにしばしば取り上げられる「不正受給」は、その認知的効果はとくに高いことから（ここにまた生活保護に対する見方の特徴がよく表されている）、かなりの影響があるといっていいただろう。

④「生活保護制度の利用」については、「必要になれば利用する」が大半を占めているが、これは労働組合員としての権利認識などの影響もあろうが、このまま受け止めるには、これまでの分析からして相当距離のあることと思われる。なお参考には、設問の後にもうけた自由記述欄の書き込みも興味深いので参照されたい。

**12. あなたは、「夫45歳、妻42歳、子ども高校2年生、子ども中学2年生」といった家族形態を想定したときに、健康で文化的な最低生活を送るための年収は、税込みいくらくらいだと思いますか（表12）**

この回答を見る前に、表示はしないが、アンケート対象者の世帯収入の現状を見ておくと、公務員では300万円未満2.3%、300～499万円20.1%、

500～699万円37.0%、700～999万円25.1%、1,000万円以上10.0%（答えたくない・無回答は5.4%）であり、民間企業ではそれぞれ6.0%、37.1%、33.3%、15.5%、4.2%（3.7%）であった。

以上の数字を前提に、「健康で文化的な生活を送るための年収」の回答を見ると、単純な比較はできないが、それでも公務員で600万～800万、民間企業では500～700万あたりの比率が高くなっていることから、現状とそれほど乖離した判断はなされていないということであろう。

そうだとすると、この「健康で文化的」水準額以下にある階層はどのようにとらえられているのだろうか。貧困の表象から始まり、身近な貧困の存在を問い、最後に「健康で文化的」な水準を問うたとき、その「健康で文化的」水準額以下の階層はいかなるイメージなのか。またそこにどのような共感を寄せるのか。このあたりは、今後インタビュー調査などもまじえて確かめたいところである。

なお関連して「自分の生活」が階級・階層の区分のどこに属するかとたずねた結果では、「中流」と「中の下」で大半を占めている。このことはいかなる評価を下すかは難しいが、私たちがかつて行った生活保護受給母子世帯の「反応」と比較してみると、その表面上の「似かよった状況」（生活保護世帯でも、その理由はともかく、しばしば『中流』と答えたり、私たちの判断では『中の下』と

表12-a あなたは、(夫45歳、妻42歳、子ども高校2年生、子ども中学2年生)といった家族形態を想定したとき健康で文化的な最低生活を送るための年収は、税込みでいくらくらいだと思いますか。もっとも近い金額を選んでください (単位:人、%)

対象	200万円	300万円	400万円	500万円	600万円	700万円	800万円	900万円	無回答	合計
公務員	0 (0.0)	7 (1.7)	20 (4.7)	65 (15.4)	93 (22.0)	107 (25.4)	100 (23.7)	25 (5.9)	5 (1.2)	422 (100.0)
民間企業	2 (0.5)	13 (3.0)	27 (6.3)	114 (26.4)	129 (29.9)	79 (18.3)	46 (10.6)	15 (3.5)	7 (1.6)	432 (100.0)

表12-b あなた自身は、あなたの家族が以下のうちどこに属すると思いますか (単位:人、%)

対象	上	中の上	中流	中の下	下	分類したくない	わからない	無回答	合計
公務員	1 (0.2)	20 (4.7)	155 (36.7)	129 (30.6)	32 (7.6)	54 (12.8)	26 (6.2)	5 (1.2)	422 (100.0)
民間企業	2 (0.5)	23 (5.3)	154 (35.6)	132 (30.6)	30 (6.9)	51 (11.8)	33 (7.6)	7 (1.6)	432 (100.0)

考えられるような事例においても、逆に回答者は「下」と答えるなど)のもつ意味が問われていると言えよう。すなわち、それぞれ個々人の回答には意味があろうが、これが数字として一体化されてしまうと、本質がぼやけて何も見えなくなってしまう危険性も高い。

### 13. 「貧困」という言葉に「違和感」を感じましたか (表 13)

ここでは「感じた」が公務員の46.0%、民間企業の54.4%と半分を占めていることがわかる。なお大学生では45.1%、M町住民では52.9%が「感じた」と回答していた。したがって、言えることは、中核的勤労者層であり、労働組合員であっても、貧困という言葉がもつ「違和感」は同じだということである。つまり、なお貧困という言葉そのものが、日本社会では必ずしも定着していない。また、はじめに表象について聞いたように、なお一般の生活世界では貧困の解釈は「混乱」のなかにあり、その整理が求められていることが今回も示唆されているのである。以下、関連する自由記述を参考資料として掲載しておく。

#### 参考資料：自由記述

問1 そのほか(「貧困」について)、あなたが何かを思い浮かべた場合、それを記述してください

- ・「餓死」「現在の日本には本当の意味での貧困はない」
- ・飯が喰えない
- ・ヒルズ族(富裕層)の反対の言葉
- ・家族が当たり前、日々の暮しを送れないような日常。例として、学校へ持っていくお金を用意できない家庭など

- ・物質は豊富にあるが、内面の貧しさを感じる
- ・先進国の上流家庭と下流の差
- ・東南アジアに対する戦後保障及び現在の外交すべて
- ・思考力、発想力、心、精神
- ・衣食住で言えば、替えの服がなく、一日3食満足にとれない、住むところがない。いずれか一つでも該当していれば、貧困であると思う
- ・一生懸命に働いても、食べていくのに精一杯の生活
- ・食べ物、住む所、着る物等すべてない状態(状況)
- ・お金がない、又は足りない
- ・学校に行けない子どもたち、満足な治療を受けれない傷病人
- ・二極化
- ・食事が毎日取れない時
- ・ストリートチルドレン
- ・“working poor”、階層社会、二極化、アメリカ型社会への転換
- ・格差社会が生み出した低所得労働者やニート等の若者
- ・飢え、ボロ屋、古い家、病院に行けない人
- ・見た目の貧困はア〜エだが、心が豊かであれば貧困とは限らないと思う
- ・自分の年収を見た時、政治家の年収と比較した時(他には東京人の年収)
- ・格差社会の中の貧困層、働く意欲はあるのに低賃金で保証もない中で労働させられている人々など
- ・心の貧しさ、精神の貧しさが少年犯罪の根底にあるのではないかと
- ・北朝鮮、核
- ・心の貧しさ

表 13 あなたはこのアンケートで使用した「貧困」という言葉に「違和感」を感じましたか (単位：人、%)

対象	感じた	感じなかった	無回答	合計
公務員	194 (46.0)	222 (52.6)	6 (1.4)	422 (100.0)
民間企業	235 (54.4)	192 (44.4)	5 (1.2)	432 (100.0)



- ・ただ貧しいだけではなく、みじめさ、満ち足りなさを伴うイメージ
- ・物質的（金銭的含め）な貧しさから、心の貧しさへとなっている、今の世の中
- ・憲法で平等が謳われているがそれに格差があること
- ・働きたくても職に就けず生計を立てる事が出来ない人
- ・マスコミを通して各事件の裏にあるもの考えた時
- ・難民の生活
- ・最近の北海道の不景気の状況
- ・今日一日の食事ができるかどうかの状態
- ・アメリカ、スラム街
- ・これからの日本
- ・人の思いやりの心の内の貧困
- ・生活が困難な状況
- ・人種差別
- ・食べ物やワクチンがなくて一日に何百人も子どもが死亡している途上国
- ・アフリカ・北朝鮮
- ・世帯所得の差
- ・昭和かれすすきの歌
- ・モラル・マナーがない人々のふるまいに貧困を感じる
- ・貧困の固定化に依る格差社会
- ・子どもの頃、芋・南瓜を食べていた時代
- ・食べるだけの生活、病気になったとき病院に行けない人
- ・格差社会が拡大し、貧しい人がますます貧しくなっている
- ・年収 200 万円以下の世帯がいる
- ・一生懸命働いても、賃金が低く生活できない
- ・働きたくても働けない環境
- ・生活苦の為自殺者の増加
- ・貧困→衣食住全てに於いて生活に危機せまり、明日の予定がたたない、また一切に於いて余裕のない状況
- ・衣食住が貧しく、すさんだ生活（生活保護受給とは関係なく）

- ・不景気が貧困の最大原因だと思うが、設問がおかしい。何か意図があるように感じる
- ・経済的、金銭的弱者
- ・自分に当てはまらない言葉
- ・精神的な貧困が犯罪を生み、己のみが良ければ良いとの考え
- ・現在の日本社会
- ・映像でみる、アジア、アフリカの農村部の貧困の様子
- ・外国人の不法滞在
- ・価値観によって違いがある。お金か？ 心か？
- ・借金
- ・国民年金のみで生活をしている人々（格差がありすぎる）
- ・ワーキングプア
- ・戦災国や高齢者の医療費など
- ・「発想の貧困」「インスピレーションの無さ」のようなイメージ

#### 問 17 生活保護制度は必要になっても「利用しないだろう」という回答の理由

- ・自助努力が人生の本旨であるから
- ・生活保護のくせして…みたい世間から冷たい目で見られて自分自身がみじめに思え、嫌になるから
- ・必要になってもすんなり利用出来ないと思う
- ・自己責任だから
- ・プライド
- ・自分ではい上がる努力をするから
- ・働くことを求める
- ・頼るより、自分自身で努力して、がんばりたい。たとえ、ムリだとしても、親・兄弟がいる
- ・恥かしい
- ・まずは自分で何とかしてみる
- ・困っている姿を知られたくない、思われたくないと思う
- ・必要になりたくない
- ・とりあえずがんばる
- ・墮落の一途
- ・その分自分で働いたほうが良い

- ・イヤだから
- ・頑張るから不必要
- ・依存してしまいそうだから
- ・制限が多い
- ・みじめだから
- ・自分で努力するべきであると考えするため
- ・なんとか自分で努力してみたいので
- ・安易にそこへ求めるのではなく、努力した結果最終的なセーフティーネットとして考える
- ・なんとなく
- ・とりあえず人一倍頑張ってから考える
- ・生涯依存してしまいそうなので…
- ・これからの時代は生活保護を受ける人が多くなると思うので、自分で出来る限界までは利用しない努力をしたいと考えます。それでもダメなときは利用します
- ・自分自身の努力で何とか生きていきます
- ・生活保護は「他に全く生活の術がない」場合にやむを得ず受けるものであり、自らの就労能力・意欲や、親類縁者の援助など、全く何も得られない場合のみ受けることのできる「特例」であると考えている
- ・自助努力をまずすべき
- ・現在の生活保護受給者に問題があり、ケースワーカーにももっと実態調査の強い権限を与える等の専門知識を有することが、これからの課題と考える
- ・自分を保つ為に
- ・国民の生活を保障する制度なので
- ・選ばなければどんな仕事でも出来るだろうし、事故などで体が不自由になったとしても、利用せず別な方法を選択すると思う
- ・制度自体変なところがあり、自立を促すものになっていない
- ・制度に頼らず、とりあえず自分で出来る限りがんばる!!
- ・不公平感を持っているため、別な方法で対応する
- ・希望してもそのような抜け道の多い制度であれば、本当に必要な人は利用できないとってい
- るから
- ・どんな手段においても最低限の生活費は稼ぐ
- ・自分で何とかしたい。依存してダメになりそう
- ・自分が努力をする
- ・何とか自立の道を選びたいという思いが強い
- ・貧困にならないよう努力するから
- ・先ず、自助努力が必要
- ・自立の為
- ・利用するという前提で考えていない、利用しないではいあがるすべをかんがえる
- ・努力する
- ・自分でがんばるから
- ・やはり、自分の稼いだ金で生活したい。障害や難病になれば仕方ないが、生保によって墮落している人間はたくさんいる
- ・自己責任
- ・条件がいろいろついてくるから
- ・国にしばられているような感じがする
- ・一度それを選んでしまったら、定期的にお金が入る事がわかっている為、努力しなくなりそうだし、依存してしまいそうだから
- ・まずは自分で努力することを考える
- ・頑張って努力する
- ・生活保護の仕組みに疑問があるから
- ・実際に保護を止めて自分で働き、前にも増して生き生きしているから
- ・自身で何とかしたい
- ・くせになるかも？
- ・子どもがみてる
- ・年齢的に望むものはない
- ・利用しないとは言い切れない（可能性を否定できない社会状況）だから
- ・何とか努力する
- ・なんとなく抵抗感がある
- ・信用できない
- ・報道されているニュースなどで必要な人に利用されていないと感じたから
- ・利用させてくれないと思う
- ・プライド

## 問 24 このアンケートで使用した「貧困」という言葉に違和感を感じましたか

- ・あまりにも普段の生活で使用する機会がないので
- ・“貧しい” “お金が無い”ではなく、貧しい経済状態でなおかつ困窮している状態ですよね。“貧しい”であればイメージできることも、“貧困”とまで言えるのか考えてしまいました
- ・貧困の言葉だけでは、いろいろなイメージで、その内容も変わってくると思う。経済的な面より、精神的に貧困な考え方も問題だと思う
- ・今の日本に貧困という言葉はあてはまらない
- ・最近やたら小泉首相のせいで格差社会になったとキャンペーンがあるが、ピンとこない。
- ・古くさい言い回し
- ・日本では他諸国から見れば、平和である程度の社会保障がされているので、貧困という言葉に違和感を持ちます
- ・現在の日本での貧困はたしかに「ある」とは思うが、ほとんどが豊かになったため精神的な問題のみが残っている
- ・身近な言葉とは感じない
- ・負のイメージが強く、マイナス要因が大きい
- ・設問の中身で！
- ・貧困というイメージは、経済的な貧しさを思い浮かべましたが、今は精神的な貧困が多いのかなと思いました
- ・何故『貧困が生まれてくるのか』について深掘したアンケートがない、言葉上の感じでの設問に感じられました。資本主義経済活動の必然性として『貧困』（経済的、精神的含）が発生すると認識しています
- ・今日の日本において「貧困」という言葉が社会的な視点から、というよりも経済的なものに重きを置いた使われ方をしているかどうか、私自身がそういうとらえ方になっている
- ・めったに出てこない言葉
- ・むずかしい問題と思います
- ・時と場合によって意味が不明になる（幅が広すぎる）
- ・日常的に使用しないため
- ・発展途上国などでは「貧困」という言葉をよく耳にするが、日本での一般社会（一般生活）の中では「貧困」はあまり使われなかった気がするから
- ・貧困とは国策で作られた部分と、個々の問題で作られた部分がある
- ・意味がはっきりしない
- ・現在、日本人（労働者）の大半が格差社会の下の側に陥り、その中で貧困な政治的経済的な現状にあり、“貧困”のアンケートをとること自体疑問を感じる
- ・何を調べるためのアンケートなのか意図がよくわからない
- ・とても差別を感じる言葉だ
- ・国内を対象にしてあまり使われない言葉だから
- ・テレビ等で、北朝鮮とか、アフリカの内線地域の映像が目浮かぶ
- ・戦後のイメージなどで、比べると…
- ・今時自分を貧困だと思っている人は少ないのでは？
- ・なぜアンケートが貧困なのか、ポイントが見えない
- ・どこからが貧困なのか、人それぞれの考え方
- ・とらえどころがない
- ・「貧困」と一言に言っても、捉え方が色々あると思う。経済的な面か、精神面か、お金がたくさんあるにこしたことはないけど、お金だけで幸せな人と、そうじゃない人もいたり
- ・貧困イコールお金ととらえている
- ・どのレベルで貧困とするのか？ 今の日本の時代と戦前・戦後を比べるのか、途上国と比較するのか、何と何を比較するのもあいまいだし、基準もあいまい
- ・経済的な貧困はイメージできるが、精神的貧困は主観的な要素が強く、よくわからない。
- ・戦中、戦後のイメージが貧困という形に近い考えを持っているが、（社会全体が貧困、心は豊か？）現在の二極化した社会では、病気等を除けば自分の努力で何とかなるのではと考える。

決して、貧困＝「貧しくて困る」とは思えない印象を受けてしまう

- ・「貧困」という言葉からは基本的に衣食住、特に食生活の貧しさを浮かべるが、多分、ものがない時代に育った子どものころの感覚なのかと思います。とりあえず今の日本は物があふれ、それでいて将来の不安はあり、精神的にも不安定で貧困と言えるのでしょうか？
- ・「貧乏」には違和感を感じないが「貧困」だとなぜか違和感を感じる
- ・社会的弱者＝貧困ではない
- ・経済的な意味が強いと思うが、精神的な意味が含まれていると感じがした
- ・私が思う貧困とは子どもが食べたくても食べられない、学びたくても学べないというようなことであり、今の日本にはこのようなものはなく、お金がないイコール貧困ではない
- ・「貧困」という言葉は多くが金銭に関して使われている言葉と感じる
- ・時代遅れ、古いイメージ
- ・このアンケートではホームレスや生活保護世帯を貧困と想定しているようですが、私はテレビなどに報道されるようなアフリカの人たちなどをイメージするため
- ・第一印象と、よく考えた場合の相違。考えれば考えるほど定義がわからなくなる
- ・普段の生活の中であまり使ったり聞いたりする機会が少なく、ピンとこない。回答に苦労した
- ・戦争直後の日本、餓死が多い国での言葉であり、今の日本ではまだ貧困というのはどうかと思いました
- ・働こうともせずに生活保護をもらっていること
- ・「困窮」が合う場合があるのでは…
- ・貧しいことが困ることとは限らない。みんなが貧しかったらそれが当たり前だと思う
- ・金の貧困と（金がなくて困っている人）と心の貧困の区別が
- ・貧困とは、個人に向けられて使われる言葉ではなく、社会制度や構造政策などに向けられる言葉で、個人に回帰すべき言葉ではないと思う
- ・貧困と偽り保護されている世帯が廻りに沢山いる一方、制度を受けられないで一生懸命に生活している人もいる。立ち回りが「うまい」「へた」で左右される制度は不平等である
- ・「物質的な貧困」は身近には感じられないほど物があふれていると思う。「精神的な貧困」が多くなってきていると思う
- ・金銭と精神的なものがあるので迷った
- ・昔のイメージでは「食うに困る」というイメージでしたが、最近は思想や考え方の「貧困」がより強く感じる
- ・経済的な事よりも、精神的な貧困（希望が持てない社会）を感じる
- ・金銭的なことのみ「貧困」しか考えたことが今までなかったが、精神的な「貧困」についてもこのアンケートでは触れられていた。少し考え方が変わった
- ・貧困という言葉は、受け取り手によって大きく変わると思っているから
- ・なぜこのような「貧困観」のアンケートをとるのか。アンケートにより、何か改善されるのでしょうか
- ・貧困とは自分自身の精神的な問題だと思う
- ・「貧困」より「貧乏」のほうが身近だからです
- ・今の日本では貧困というイメージとあまりにかけ離れているから。制度はあるが、利用するもしないも個人選択であるし、選ぶ側も不公正になっているし、見た目だけの生活＝貧困とはならない。精神的な部分での貧困（感）を強く感じるため
- ・経済力格差の問題と貧困という問題は別だと思う。このアンケートでは経済力のことだけが前面に出ている感じがした
- ・差別感を感じた
- ・経済的な「貧困」と発想などが乏しい意味の「貧困」がゴチャマゼになっていて何を聞きたいのか非常に判りづらい
- ・“貧しい”とのニュアンスの違いに悩んだ
- ・貧困というよりも、心のゆとり、乏しさ、余裕のなさを強く感じた

- ・途上国を見たときの貧困と日本国内だけで見る貧困とは区別すべき
- ・言葉のひびきが良くない
- ・その時、人の状況によってとらえ方が変わる○×のような形式では答えられない
- ・言葉に逃げこみ、逃げ口上につかわれているのでは
- ・貧困と生活が苦しいとは違うと思う
- ・日本社会の中では、なくなりつつあった様に感じていた(一昔前まで)。最近になって、マスコミ等で耳にするようになってきたと思います
- ・身近に「貧困」を感じるひとがいないため、ぼやけたイメージとなり、具体的質問に答えるのに戸惑いを感じた
- ・貧困という位置づけができない。金銭、物質、精神(心)の個々満足度が違う
- ・貧困とは、お金の貧しさゆえに起こるもので、精神的、心の持ちようは別であると思う
- ・現在の日本に当てはまらないと思いますが
- ・貧困といわれると精神面の話に思う。心の問題だと思う。金なら貧乏
- ・子どもを進学させやすい、又は学校にいて学びたい人は一定の考え方をレポートに書き、成績がよければ親の力ではなく自分の力で進学できる日本にしてください
- ・さみしい気持ちが出てきてしまう
- ・経済的貧困と精神的貧困があるので、いちがいに貧困という言葉を用いるのはどうか
- ・差別の様で嫌だった
- ・社会や制度以前の問題として、それぞれの意識の中に、働くことに対する努力が少ないと思っている。自分自身の考え方や生き方から変えるべきと考える
- ・東南アジアなど食事のままならず、医療も受けられない現実を見たとき、日本は貧困ではないと思った。日本にはまだ頑張ればチャンスがあると思った。ただ精神的には、やはり貧困であると思う
- ・いやな言葉であり、やる気がうせる
- ・人が決め付けることではないと思う
- ・いろんな意味にとれる言葉だと思う。人により感じ方は違うのでは…
- ・貧困は働きたくても働けず、戦争を起している国で内乱などで職がなく、国などじたいが生産性を途絶している国で、困っている人のことを言うのであると考え、現在の日本ではありえない言葉だと思う
- ・精神的なもの、金銭的なもので、貧困というものがとらえる感覚が違うと思う
- ・何か、差別的な表現だと感じる
- ・何を持って「貧困」と判断するか、断定するか、迷う
- ・貧困とは、その人(当事者)がどう思っているかで決まるものである、と思う
- ・自分の生活レベルを比べたとき、それより下と判断してしまうことをあえてこのアンケートが引き出そうとしていると感じました。
- ・周りにはテレビで見るような人間がいらないから!
- ・日本社会で格差が広がろうとも、貧困家庭が生まれるまでは、先進国にはあってはならない
- ・貧困の定義が難しい。物、心、社会、全てに通じる
- ・貧乏のほうがわかりやすい
- ・「貧困」という概念が、連合としてどう考えてるのか、よくわからない
- ・普段使わない言葉なので
- ・所得格差の広がりには認識しているが、「貧困」とは違う。今の世の中は「裕福」、広義で
- ・そもそもあまり使用しない
- ・普段使う言葉でないと思う!
- ・個人のとらえ方がまちまちと思う
- ・日本自体が裕福になりすぎて、貧困という言葉が世界の貧困にくらべると裕福に感じられるから
- ・あまり使いたくない言葉で、子どもの前では、特に使いたくないです
- ・差別的
- ・教育、考え方、モラルなどの低下が大きな要因と考えるので、必ずしも金銭を連想させる貧困

はなじまない気がする

- ・自分の努力なしに他に頼るのはどうかと…
- ・海外の途上国や戦災国を指すものと考え、問1以外は答を選択することができないと感じる
- ・貧困はメディアが作り出していると思います
- ・貧困というものを真に考えたことがなかった
- ・人には欲がある。その人々で感覚は違う。ものがあふれ、豊かな環境にあり、本当の貧困は、戦争であつたり食べることができなかつたりすることでは
- ・身近に貧困を感じるものがなく、設問に対しなかなかイメージすることができませんでした。もしかすると私自身、心の貧困にあるのかもしれない
- ・貧困の定義が不鮮明な気がした。メディアを通じた貧困のイメージが大きいので、自身と重ねると gap が大きい
- ・お金の貧困が心の貧困と違うステージにあり、お金がなくても心豊かに生活をしている人もいます。もっと分けて考えていくことが必要と思います
- ・なんとなく…
- ・物質的な貧困と精神的な貧困で、違う回答になると思う
- ・貧困という定義が良く分からない
- ・戦後～高度成長期までの言葉であるとのイメージが強い
- ・貧困の定義があいまいな為、主観によった回答になると感じた
- ・どうも貧困というのは金が強いように見えるが、そんなことはどーでもいいこと
- ・戦後時代と現在(意識の多様化、価値観の違い)とは持つ意味合いが違う
- ・貧困のレベルがよくわからない
- ・金銭面以外の貧困という概念がなかった
- ・自分自身というか、社会全体に対して貧困だというイメージがない
- ・貧困の定義付けは必要なのでしょうか？
- ・単純に金がないことで生活が苦しいのが貧困・貧乏だと思うが、病気などで収入がなくなると

たちまち貧困になり、それに対しての国・社会からの保障が何もない。病気になり、体も不自由になり、普通の生活ができなくなり、収入もなくなると、残された道は死だけ。国というのは、最終的には国民の生活が安全に健康にできる、北欧の国々を目標とするべきであると思います

- ・身近に感じられない
- ・貧困と貧困じゃない境目がよくわからない
- ・貧困とは何を基準とするのか？
- ・自分自身が貧困と思う
- ・日本はまだ良い方だ！
- ・「貧困」としてのレベルのとらえ方に違和感を感じた
- ・このアンケートは経済的貧困だけを取り上げています。病気や、又精神的な貧困の項目を取り上げてもよかったですのでは？
- ・政治的混迷や不景気が貧困の原因であり、「働けど働けど、なお我暮らし楽にならず」の状態が貧困だと思う
- ・個人、個人で、どう思うかで、他人にとやかく言われたくない
- ・貧困という言葉と範囲がいまだに判らないまま終ってしまった
- ・戦争時の多くの人々が認識をしていた貧困とは違う
- ・経済的な貧困だけでなく、精神的貧困も増加している
- ・金銭生活面だけではなく、精神面にも貧困はあるのでは
- ・言葉がきらい!!
- ・設問の内容について自分のイメージと相違していた
- ・貧困がない社会になると良い
- ・貧困という言葉が差別用語に感じる
- ・貧困という言葉のイメージが若干ちがっている
- ・他に該当する単語がないのかもしれないが、貧困という単語に語弊を感じる。差別的な意味合いが含まれるのでは
- ・お金と心…お金があれば、裕福か？というと、

そうでないと思う。自分に子どもができて、特に心の大切さを感じています。自分は子どもの頃、貧しい生活を送ってきたと思う。でも、今振り返ってみると、不幸だったとは言えない!! 貧しい中にも楽しい事や幸せなことがたくさんあったと思う。自分の子どもにも心の大切さを分かってもらえるよう、親の生きざまを見せていきたいと思っています

- ・貧困といわれると、よくわからなかった
- ・貧困という言葉は強すぎる。貧しきくらいが良いのでは…
- ・最近耳にしたことがなく、人々の不公平さが出ているようだ
- ・生活上と心の貧困と同一でないと思う
- ・貧困とは意識の持ち方で変わってしまう恐ろしさがある
- ・質問の答が貧困というテーマにつながりがあるのかがわかりづらい!!

#### 問 25 最後にご意見、ご感想があればご記入ください

- ・私自身、ホームレスや生活保護を受給されている方は、すべて本人次第の頑張りがあれば、この日本では何とかなると思いますので、日本では貧困という言葉は存在しないと考えます
- ・小泉政権がもたらした「格差社会」がこれからどんどん「貧困」をうんでいくと思う
- ・設問が多すぎる!
- ・日本の企業はもっと社会貢献をするべきだと思う。法人税をもっと上げるべきだと思います。弱者や高齢者からこれ以上の負担を強いるのは不公平である。働かないで株などのマネーゲームでもうけている富裕層はもっと負担するべきだ
- ・臨時的雇用労働者を拡大している中では、貧困の増加は避けられない。そうさせない法律を作ることが課題
- ・この調査のめざすものが何かという事が良く理解できません。資本主義社会での日本の制度は(社会的福祉政策等)は限定的なものでしかない

と考えます。社会の仕組みを変えるという視点で大胆にふみ込んだ調査であってほしいものです。現政府の補助金で実施していることにはあまり意味はないと思いますが、設問自体に貧困の原因たる核心にふれていませんのでとりあえず意見をのべておきます

- ・日本の貧困率の高さは、世界で2位といわれている。発展途上国と比べて違った型の貧困であり、克服できる貧困であると考え
- ・生まれたときから、将来が決まっているような社会はよくない。人権は等しく与えられているのだから、教育を受ける権利を守り努力すれば、いろいろな道に進める社会でなくてはいけません
- ・それぞれの生活や価値(観)の違いで、比較などで「貧困」とかは言えないと思う。しかし、生活が絶対ムリというのはまずいと思う
- ・良い社会をつくりたい
- ・金銭面では、また「貧乏」程度だと思うが、精神的(近隣等人づきあいやモノの考え方)は「貧困」に限りなく達していると思う
- ・何のためにこの調査をするのか。設問と選ぶ回答が良くない。弱いものの立場に立っていない。だから表現の仕方もおかしい
- ・①一般的なアンケートより労働組合に対する組合員の意識調査や職場の組合員の問題点の調査アンケートをして、連合や労働組合の強化に向けたアンケートを実施すべき。②アンケート内容がつまらない
- ・アンケートの趣旨がよく分からない
- ・持ち家、自家用自動車を所有している家庭でも、年々年取が減少している現状からは、「貧困」とは思わないが「生活が苦しい」と感じている家庭は多いと思う
- ・えっと思う。よいアンケートだと思いました
- ・裕福な人とそうでない人たちの差をたいらにし、助け合いがトーゼンのような社会を希望します
- ・アンケート内での目的等がどの事か不明である(環境、政治、社会生活、給与、賃金、余裕、家

族 etc.)

- こんなことでも世の中は全く変わらない
- O・ヘンリーのお話じゃないけど、世の中にはお金だけじゃなく、もっと大切なものがあるのだと思う。そういう部分が、日本人には稀薄になってきているように思う。だけど、年取何億とかって人がいる一方で、餓死したりする人もいたりして、貧富の差ははげしくなっていると思う。なんかむなしです
- ここで考える貧困とは、金銭的なことだけなのだろうか。精神的な「貧困」も今の日本では大きいと思います
- 経済的な「貧困」と精神的な「貧困」があり、区別が難しかった。経済と精神はイコールではないから
- 範囲が広い
- 「貧困」と聞いて、本当に食べる物もない、戦後すぐのイメージを持っているが、高度経済成長期に生まれた世代としては、非常に別の次元の話ととらえがちである。ホームレス、生活保護世帯の増加、失業者の増加などと目を向けると、それらも「貧困」の一つと考えられる。社会保障制度は強者のためではなく、弱者救済のためである。憲法がみとめる、保障する、最低限の生活とは、どのような生活なのか、一度考えてみるべき
- 秋田の子どもを殺した女性も生活保護を受けていたと聞かすが、働けない状況ではないのに働かず男を連れ込み…と、必要な人に渡らず、必要でない人に渡っている状況が目にする。何年前には保護が打ち切れ、餓死した人が大阪かどこかにいたというニュースを見たが、このようなことから、必要とする人に適切に受けられるよう、自治体の基準を見直す必要があるのでは？ 最後に本アンケートの目的を達成し、社会の役に立つ研究が行われるようお願い申し上げます
- 「貧困」ではなく「裕福ではないとは…」という調査であれば、問1～3のほとんどの答を①にしたと思います。なかなか貧困という言葉からのイメージは低くないな、と感じました。
- 生活保護制度は、本当に必要な人に利用されるよう見直し、併せて、生活保護が必要な人への援助を増やすべき
- 問3の設問で強く感じましたが、設問に対する前提がないと思います。例えば、ク)「健康的な食生活ができていない」については、個人の性格や生活態度でそうなっているのか、家賃などの必要経費の支出後、食費を削らなければならないのか等
- この調査を含めて、社会福祉関係予算の切捨てにより、最低限の人間の生活を維持することが難しくなっていることが問題である
- 哲学的なアンケートでした
- 貧困は経済的（金銭）だけでなく、思想や考え方のほうがもっと必要だと思います
- 格差社会の是正へ、大きな力になって下さい
- 「貧困」の問題こそ、今後10年程度最も対応を急がねばならない問題である、アメリカのような社会にすべきではなく、ヨーロッパのような成熟した社会民主主義的部分に軸足を置いた社会を目指すべきだろう
- 日本的な雇用体制であった終身雇用・年功序列賃金が諸外国に見直されてきている。全て能力で判断するような考え方を改めることが貧困を少なくする方策ではないか
- 問12-イの「子どもたちに十分な教育」とがあるが、学校での教育ではなく、人としての教育ということであれば重要であると思います。まずは自立の出来る人づくりが大事だと
- 何を意図として、このアンケートを使用するのか。事前の説明があったほうが良いと思います
- 現在の格差社会がとても良くないと思う
- 何故保護を受けることになったのかで、状況が変わってくると思う、このような質問をされても回答が難しい
- 生活保護は大病やけがなどによるものを除き、自立できる様にサポート（例：教育、訓練、カウンセリング等）することが最優先と考えます。依存する人が多くなりすぎると制度自体の維持



が困難になります。特に若い人達には技術や経験をつけさせることが必要だと思います

- 市場経済、資本主義下では「貧困」がなければ維持できない社会体制と思う。そこから抜け出すためには、資本主義から脱却する必要があるが、最低限自民党政権を断ち切ることから始まると思う
- 経済大国であって、なお高齢者社会なのに政治が変わらない。日本の国民性を疑う。他国は、おかしいと思ったら（スキャンダル等）次回の選挙で政党が変わっている。日本人の大半は中流社会であると思っている。決してそうじゃないと思います
- 「貧困」自体、精神もしくは金銭的なものなのか、一言では難しいと思う。責任についても、一言では難しい問題だと思う。選択肢以外にも多くの意見があるような気がします
- 生活保護制度に問題がある。働かない、健常者、偽装離婚
- 集計の結果及びそれを踏まえての対策（動き）などを知りたい
- 「貧困」と一言で言っても「経済的貧困」「精神的貧困」等いろいろあり、回答しにくかった
- 公務員の給与が低すぎる。儲けているのは、政治家と一部の官僚だけである。民間の方々は全て「同じ」と考えられていることに疑問を感じる。公務員も民間の方々と同じで苦しみながら生活していることを知りたい
- 生活保護費が国民年金よりも高額である今の社会はどう考えても間違っている。本当の意味で日本に貧困はあるのでしょうか？
- 経済的貧しさを貧困として連想するが、社会的つながり等について貧困かはほとんど考えたことがなかった
- 基本的には努力はある程度（最低限度の生活は超える）必ず実ると思う。本当に頑張れる人で『貧困』とまでなる人は、この国ではほとんどいないだろう。ただ身体的な問題などでどうしようもないケースも少なくはない。その見極めが重要で、自己責任で『貧困』となるケースと前

者をひとくくりで考えるべきではない。努力もしない『寄生者』と本当に『保護すべき人』は、別物だということ。ちなみに下層の寄生者はともかく、上層の寄生者は許すべきではない

- これを解析した結果を、私たちの目のふれる形でぜひ公開してください。楽しみにしております
- 今現在は貧困する世帯は少ないと思うが、今後富めるものと貧困するものが、はっきりと分かれていくことが予想され、国の政策がしっかりしないと大多数の貧困層で日本は貧しい国へと変化してしまうと思う。国自体が貧困から抜け出せなくなる
- なんのためのアンケートなのかかわからず答えていったので
- もう少し回答に幅があると答えやすいと思いました。精神的な貧困なのか、現実的な貧困によるアンケートなのかよくわからなかったです。この結果はどのように集計し、どのように利用され、分析結果をどう公表するのか、すごく気になりました
- 貧困が、金銭と精神の境界に判断が悩んだ
- お金がないのが貧困ではなく、精神的に貧しいのが貧困のような気がします
- だれとはいませんが、クレジットのつかいすぎの人々を救ったりするよりも事件の被害者など、生活がくるった人々を救う法律を完備してほしいです。犯罪者は刑務所で守られているのはダメ、人を殺した人は人のためにならない
- 自分もそうですが、生活することに（働いて賃金を得ること）に、責任を持つ意識が足りない様な気がします。仕事を選ばずに働くつもりでいると、現在の日本では何らかの労働ができると思います
- 理由は多々あると思うが、生活保護を受ける、条件、制約等で、必要としている人が受けられないのではないのか。また、受けるに当たっての周囲の環境（人の目等）も影響しているように強く感じる
- 格差社会といわれているが、それは、雇用形態

の変化が大きいのと思われる。終身雇用制は、やっぱり大事ではないだろうかと考えてしまいます

- ・「個の自立」が大半の人々に必要と考えます。体に障害を持った人々や親のいない子どもなどを「貧困」だとは決められません。下流社会という著物も読みましたが、今は、一人の人間の中に、「下流」と「富裕」の生活観が存在していると思いますので、定数データでは計りきれないものもあると思います
- ・これからもっと貧困という言葉が重くなっていくと思う
- ・生活保護制度はすべて廃止すべき。障害者や身体的に働くことのできない人は、すべてにおいて国、地方が保護すべきだ。老人や自分勝手に子どもを作り別れた女性とかに援助するのはバカげている。たいていはギャンブルに使って終わりだ
- ・アンケート対象は、行政や首長等、つかさどる層だろう。今の世の問題は、人間が人間らしく生きる社会のバランスが崩れているためだと思う。貧困だけでは話はできない。返って不快な感じです
- ・競争社会の拡大が格差の拡大を招いている。政治と企業の責任は大きいと思う
- ・全体、日本は、世界に比べると裕福だと思う
- ・設問の背景を考えた場合、はい・いいえで判断するのはむずかしいと思う
- ・本州と北海道では貧困のイメージが違うのでは
- ・自分の生活は貧しいが「貧困」について考えたことがないから分かりづらい。貧困も良く理解してないが、単純にお金がない＝貧しいとはならないかも。貧しくても楽しく生きている人はいるし、楽しく生きている人に「貧しさ」は感じない。「貧しさ」はその人の心が決める事のような気がします
- ・選択式のアンケートではありますが、大変難しいものでありました。特に問2などは、何故そのような状況になったのか？ 自ら望んでいるものなのか？ いろいろな場面を考えてしまいます。捉え方によって答が変わってしまいます

- ・難しい
- ・貧困観とは個人差がある
- ・戦後の貧困と現代では、意味が違うと思う
- ・生活格差がありすぎると思います
- ・アンケートの対象者がどこまでかわかりませんが、連合の人間よりもホームレス、年金生活者などの意見が数倍も利用価値があると思う
- ・誰もが安心、安全に暮らせる格差のない社会、地域づくりを
- ・金銭的な貧困もあるが、精神的な貧困が増している。社会の枠組みがデジタル化され、人間的なつながりを必要としない、あるいは面倒とした傾向がだんだん大きくなってきているような気がする
- ・経済的な貧困と精神的な貧困と一緒にしている質問事項があり回答に迷った
- ・今の政治家は本当に国民生活のことをしんけんに考えているのか？
- ・調査を行っている方が貧困についてどう思っているのか。貧困と本人が認識するような状況を経験したことがあるのか知りたい
- ・中身が難しく、とらえ方も色々あって大変でした。人間関係のことも貧困に入るのか不思議です
- ・「貧困」の設問に検討を加えたほうが良いのでは。言葉の裏にある背景が個々に違うと決められないものもあるのでは？
- ・最近流行している「格差社会」等の議論・主張に対し、私は違和感を覚える立場です。余程、「機会均等化」がまだまだ未整備であるこの社会が、そのスタートラインを正常化することが大前提だと思います
- ・正直者が馬鹿をみるような社会がある限り、貧困はなくならないと感じます。貧しさから脱したいということを真剣に思って行動しようとしている人に、きちんとしたサポートがされるべきだと思います

(北海道大学大学院教育学研究科教授)